

世界  
マリアニスト  
祈りの日



2020 年  
10 月 11 日

“エルサルトの聖母マリア”

“Nuestra Señora de El Salto”

(タクンガの貴重な真珠)

ラタクンガ — エクアドル



教区立

マリア聖地



## エクアドルのキリスト教と教区立マリア聖地“エルサルトの聖母”の地理的位置の紹介

1



エクアドルのキリスト教はラテンアメリカへのスペイン人の到着と共に始まりました。スペイン人は、1492年以来、この国と南米大陸の様々な都市で独立が始まる 19 世紀に至るまで、エクアドルを植民地としていました。

こうして、宗教信条に関して、国レベルでのエクアドル国民の大半はカトリック信者で（約 79%）、国全体では熱烈で民衆的なマリア信仰に特徴があり、特にエクアドル山岳地の教会とマリア聖地ではそのような長い歴史があります。

“エルサルトの聖母マリア”の聖地はラタクンガ市に位置し、この都市は南米のエクアドルアンデス地域の北中央にあります。ラタクンガはその名となっている火山の近くのコトパクス州に属しています。この都市は海拔 2750 メートル（9022 フィート）に位置し、地震のリスクに晒され、平均気温 12°C（54° F）の冷たいアンデス気候の地です。



## 教区立マリア聖地“エルサルトの聖母マリア”の歴史

(エルサルトの巡礼者、タクンガの貴重な真珠)

2

17 世紀の初めに、ドミニコ会の管区長、Bedón 神父は、福音を広め、また“ロザリオの聖母マリア”を敬いたいと熱望して、1618 年、神の母の美しい画像を描いた石盤を作りました。聖母マリアは「御子イエスを抱いて椅子に座り、一匹の子羊の横に居る洗礼者ヨハネの髪を手で撫でておられ、これら全てがコトパクス火山の麓にあります。」Bedón 神父は彼女を“安らぎの聖母マリア”と名付けました。

その後の年月に、ラタクンガ市が位置するエクアドルの中心は幾度となく地震に見舞われ、大きな災害と人的喪失を蒙りました。1698 年に、“安らぎの聖母マリア”が描かれた石盤は消失しました。それから 70 年後、石盤は再び現れ、嚴重に先祖たちによって守られた大切な伝説が生まれました。



現存する事例の中、一つの言い伝えとして、町の一部を横切るヤナヤク川を渡るため、住民が一足飛びで渡り、そして安全のために彼らは飛び石として 1 枚の平たい石盤を据えたとの事です。ある者が、飛び石として使うこの石盤を安定させるためそれを裏返すと、一方の面に描かれた美しい絵が発見されました。

この出来事が知られると、信者たちは聖母マリアが描かれた石盤をそこから近くの場所に移し、それに敬意を表して聖堂を建て、それを“エルサルトの巡礼者、タクンガの貴重な真珠”と名付けました。

1797年1月21日の地震の翌年、ラタクンガの住民は、神の正義の怒りを鎮めて頂くべく執り成して下さった聖母マリアへの敬愛と感謝のしるしとして、毎年2月4日を彼女の記念日として設定し、“地震からの擁護者”とすることを誓約しました。彼らは同じ場所に“エルサルト”と呼ばれる教会の建設を再び開始しました。

年月が過ぎ、また新たな地震やコトバクシ火山の噴火がある中で、ラタクンガの都市は、ちょうど一方の腕にイエスを、他方には洗礼者ヨハネを抱くように、彼女の子供たち一人ひとりを助けることによって母なる保護を示しつつ、“サルトの聖母マリア”、“地震に対する彼らの聖なる保護者”の助けと保護を受けました。

今日に至るまで、彼女の多くの息子と娘たちが聖地を訪れ、静かに蠟燭を灯して、特別なお恵みを頂けるよう御母の執り成しをお願いしたり、あるいは既に頂いたお恵みに感謝を捧げています。



## エクアドルのラタクンガ、および教区立“エルサルトの聖母”マリア聖地 におけるマリアニストの存在



1979年11月23日に、マリア会修道者がラタクンガ司教区、Mario Ruiz Navas 司教の呼びかけと依頼を受け、新たに創設された教区立の“Colegio Frere Miguel”の運営責任を引き受けるために現地に到着し、同時に“November 11 The Victory”と名付けられた小教区の司牧の任務を引き受けました。

その数年後、司教区の要請を受けて、マリアニストは“エルサルトの聖母マリア”小教区を引き受けましたが、この小教区は基本的には小教区として機能しており、マリア会のマリア的なアイデンティティに対して特別な注目を向けるものではありませんでした。しかし、石盤の上に描かれた画像の歴史と重要性を少しずつ知るにつれ、彼らはマリアニストとして、“エルサルトの聖母マリア”の名の下に信者たちが信仰と熱意を持って御母の存在を歓迎する場所へと、小教区の共同体に霊的に同伴し始めました。

それに続いて、Ruiz 司教は普遍教会に於けるマリアの年（1987－1988）を祝って、この小教区を、教区立マリア聖地と宣言しました。

聖母マリアは、聖地となって以来、非常に多くの人々の母であり保護者でした。人々は毎日、特に祝日には、教会の前にある広場を埋め尽くしました。1983年以来、聖母マリアはその聖地から数ブロックのところにある「農民の家」を建てる計画を示唆されました。そこに、プラットホームの上で夜を過ごす先住民、荷役労働者、物乞いの人たちを受け入れて、ポンチョを纏って夜の寒さから身を守れるようにするためでした。この家は、1985年1月31日に行われたエクアドルの先住民の諸部族との教皇の歴史的会議を記念するために建設されると聖ヨハネ・パウロ二世教皇に約束されました。この家は1988年8月に落成しました。マリア聖地での約10年間の奉仕の後、マリアニストは撤退し、今日まで司教区の司祭たちの手にそれが委ねられています。

現在は、マリア会修道者は「農民の家」に留まり、また“Colegio Frere Miguel”でマリアニスト・シスターや信徒マリアニスト共同体のメンバーと共にマリアニスト家族として奉仕活動を続けています。

終わりに、若かった時にマリアニストと協働していた以前の“エルサルト”の要理教師のグループ（今は CLM/MLC メンバー）は、2016年にマリア聖地の責任を任せられ、マリアニ

スト霊性を持ってエルサルトの聖母マリアに奉仕するという特別な呼びかけを感じてそこに戻りました。彼らは、もう一度このご加護を求める祈りを、いくつかの家族がこの聖母マリアの画像をロザリオの祈りと共に自分たちの家庭に持ち込んでいたラタクングの司教区だけではなく、国内や世界の様々な地域に於いても知らせ、マリアの母としての存在とご加護を通して自然災害から人々を救済し、このようにして、“一足飛びの巡礼者：地震に対する保護の聖人”であるマリアへと立ち戻ることを願ったのです。



## 祈りの意向

4

エルサルトの聖母マリアの執り成しを通して以下の祈りを捧げましょう。

a) 自然災害の状況と“私たちが共に暮らす家”の保護のために：

“全ての被造物は繋がっているので、それぞれは優しさと敬意を持って大切にされねばなりません”

(教皇フランシスコ)

“物質世界全体は神の愛、私たちに向けられた神の限りない愛の言葉です” (教皇フランシスコ)

祈願：私たちが、自分の行動およびその行動が特に私たちがともに暮らす家にもたらす悪影響を自覚するようになり、また、独創的な働きにおいて私たちが協力するよう祈ります。また、私たちはあなたが全ての国を心に留め、自然災害から守ってくださるよう祈ります。主に祈ります。

全員：“‘エルサルトの聖母’、あなたに栄光がありますように。神の御母、あなたに栄光がありますように。私たちのために執り成してください、そして私たちがキリストへ導いてください。”

b) ラテンアメリカのため、そして世界平和のために：

“もし私たちが人間と社会の破壊に関する原因に注意を払わないなら、私たちは環境の破壊に適切に立ち向かうことが出来ません” (教皇フランシスコ)

祈願：私たちの兄弟姉妹に対して加えられた危害、および、共に生きられ分かち合われるべきあなたの賜物である貴重な平和の賜物を忘れてしまった事をお許してください；私たちはこの過ぎた1年に蒙った被害のために、特別なかたちでラテンアメリカをあなたに委ねます。また、私たちが苦しんでいる様々な紛争状況に直面する世界の平和のために、あなたに委ねます。主に祈ります。

全員：“‘エルサルトの聖母’、あなたに栄光がありますように。神の御母、あなたに栄光がありますように。私たちのために執り成してください、そして私たちがキリストへ導いてください。”

**c) マリアニスト家族の信仰生活のために：**

“聖母マリア無しのキリスト者は孤児です。また、教会無しのキリスト者もやはり孤児です。キリスト者はこれらの二人の女性、二人の母なる女性、二人のおとめである女性：すなわち教会と神の御母を必要とします”  
(教皇フランシスコ)

“聖寵に満ちたおとめマリアと常に一致していなさい”  
(シミナード神父)

**祈 願：**私たちは、私たちの母マリアという素晴らしい贈り物に感謝します。私たちがマリアによってその御子に似たものに形作られるようにしてください。また、信仰の“跳躍”において私たちを助けて下さるマリアと共なるに巡礼において、世界の至る所でイエスを知らせ、愛させ、仕えさせて、一つのマリアニスト家族として働く恵みをお願いいたします。**主に祈ります。**

**全 員：**“‘エルサルトの聖母’、あなたに栄光がありますように。神の御母、あなたに栄光がありますように。私たちのために執り成してください、そして私たちをキリストへ導いてください。”

**d) マリアニスト家族への召命のために：**

“不意の花婿の到着に慌てないよう私たちのランプに油を満たしておきましょう、そして花婿が到着するやいなや愛情をもって素早く彼に従いましょう”  
(メール・アデル)

**祈 願：**マリアニスト家族の各枝のために、豊かで聖なる召命を育ててくださるようお願い致します。このマリアニストの中で、一人ひとり自分の生活の身分を見出し、マリアと一致して主の呼びかけに愛をもって素早く応えることが出来るのです。**主に祈ります。**

**全 員：**“‘エルサルトの聖母’、あなたに栄光がありますように。神の御母、あなたに栄光がありますように。私たちのために執り成してください、そして私たちをキリストへ導いてください。”



## “エルサルトの聖母マリア”への祈り

私たちの中に神をもたらしてくださった、  
おとめであり母であるマリア、  
私たちを優しく見守りください。  
様々な必要にあたって私たちをお助けください。  
利己主義から私たちを解放してください。  
正義と平和と兄弟愛において、  
この地上に神の国を建設するために、  
あなたの御子イエスの似姿に  
私たちを形作ってください。アーメン。  
罪の汚れのないおとめマリアによって、  
父と子と聖霊が至るところでたたえられますよう  
に。アーメン。

